教職大学院
島根大学大学院教育学研究科
教育実践開発専攻

Shimane University
Graduate School of Education
Department of Advance Studies
on Teaching Profession

人とともに 地域とともに
国立大学法人
島根大学

地域の教育力向上に向けての

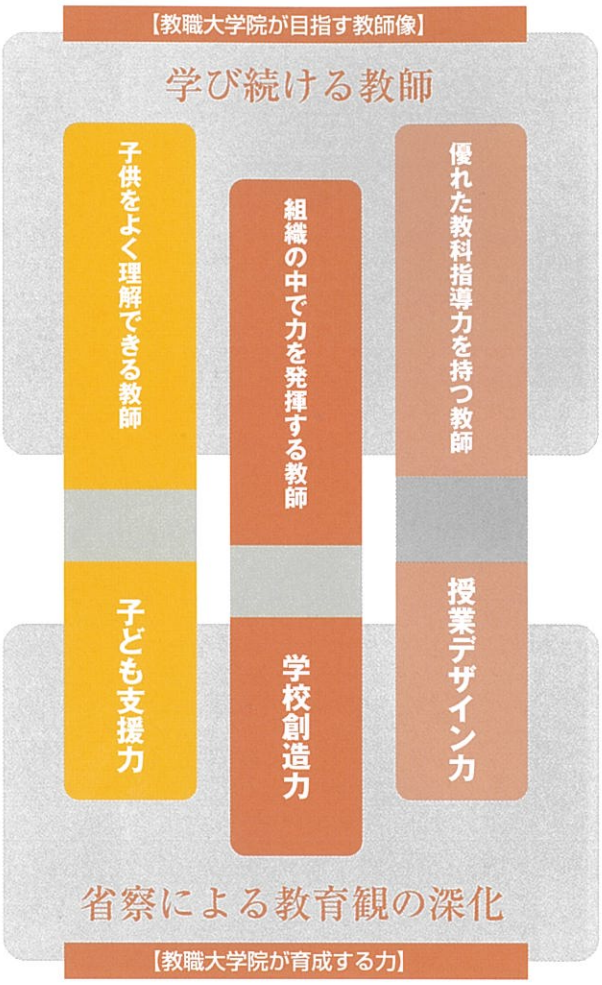
島根大学大学院教育学研究科
教育実践開発専攻（教職大学院）専攻長
松本　一郎

島根大学教職大学院（教育学研究科教育実践開発専攻）は2018年度から設立3年目に入りました.つまり,それは教職大学院修了生が島根・鳥取両県を中心とした教職現場に就いた事を意味します.現職派遣教員については,教職現場に戻ったことになり、また新卒院生（ストレートマスター）については初めての職場ということになります.これにより、これまで以上に教職大学院と山陰両県の教育委員会との連携・協働がますます強化されてまいります.

教職大学院での学びは,日々変化する教職現場の様々な課題に対応すべく,目指す教師像として島根大学教職大学院では「学び続ける教師」の育成を掲げています.つまり,学び続けるには教師自身の学びに対するモチベーションが必要です.そのモチベーションの持ち方は、この冊子で紹介するような様々な仕組み（授業内容や授業方法）,豊かな学修環境（高度な教育実践力をもつ教員や現職教員学生と一緒に学ぶ環境）によって実現します.また,それは新卒院生にとっては教員採用試験合格への確かな近道になっていると考えています.以上の仕組みや環境は,正にスクールリーダーを育てるのに最適な環境にあると自信を持っています.

学習指導要領では子どもの「主体的・対話的で深い学び」が重視されていますが,これは教師自身にも求められるものであり,正に教職大学院での学びそのものであると言えます.教壇に立った修了生の授業や活躍を見る機会がありますが,どの顔も自信とやる気に満ちあふれています.

ぜひ,あなたも教員としての40年にも及ぶ教職人生を実り多きものにするために教職大学院への進学を考えてみてください.



島根県教育委員会教育長
新田　英夫

島根県教育委員会は，「島根県公立学校教育職員人材育成基本方針」の中で，「学び続ける教員」の育成を大きなテーマに掲げており，中でも、確かな学校マネジメント力を備え，次代の教育を担うミドルリーダーの育成が急務であると考えています．

教職大学院の「スクールリーダー」を養成する取り組みは，まさにこの求めに合致するものであり，ここで学んだ教員が，島根県の教育を文字通りリーダーとして牽引してくれるものと，大いに期待しています．

鳥取県教育委員会教育長
山本　仁志

鳥取県では,『自立して心豊かに生きる未来を創造する鳥取県の人づくり』という基本理念のもと,子どもたちの未来のための教育振興施策に取り組んでいます.

子どもたちが生きていく21世紀の社会は複雑化・多様化しており,時代の変化を見据えた教育が求められています.そのような中,島根大学教職大学院において学んだ教員が,現代社会・地域社会の有する教育課題を解決することのできる高度の専門的能力及び優れた資質を身につけ,スクールリーダーとして本県の教育力向上に貢献することを期待しています.

「地域拠点校」と「サテライト」

地域の教育力向上に向けての「地域拠点校」と「サテライト」

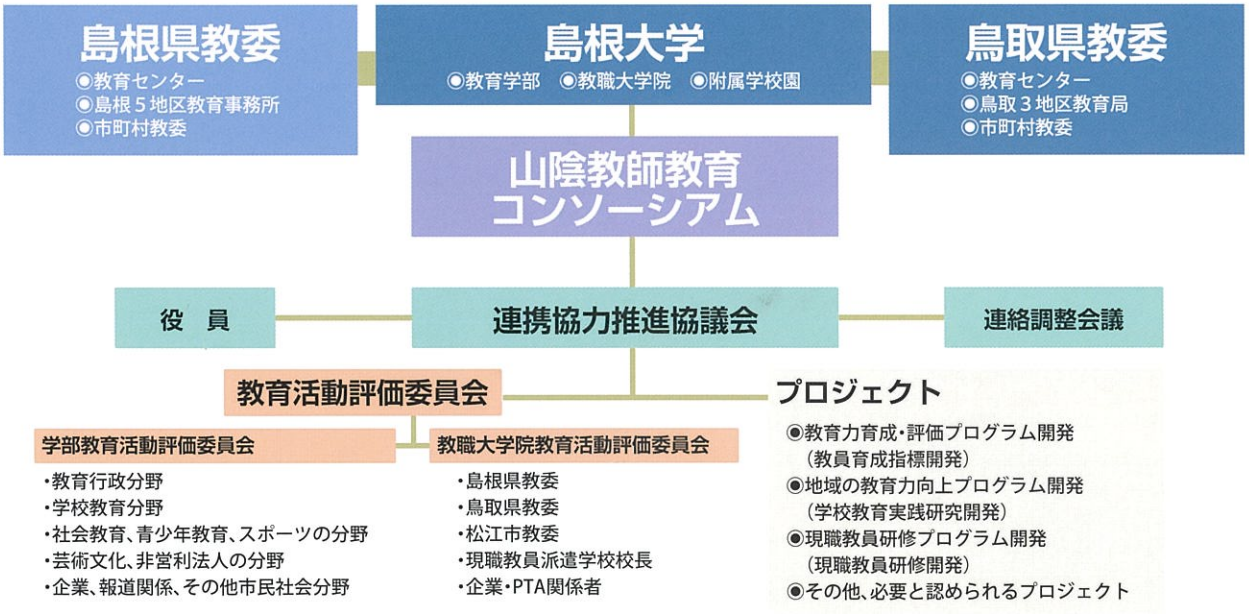
□山陰の都市部や島しょ部・中山間地域に『地域拠点校』を設け，教職大学院教員（実務家教員・研究者教員）が当該校の学校教育研究に入り込みながら地域課題と密着した研修を実施することによって，理論と実践の往還を通した現職教員の力量形成をはかります.さらに，継続的な現職教員指導を通して，拠点校を核とする地域の教育力向上を目指します.

□現職教員は地域拠点校に勤務しながら，大学院1年目は大学での講義・演習を中心とする学修を行い，2年目は勤務校での実習を主として行います.なお，山陰の東部地域・西部地域の拠点校に勤務する現職教員の2年目の学修は，東部と西部のサテライトを有効に活用しながら行います.

□学部新卒院生は，原則として，大学院2年間を通じて公立学校において継続的にインターン実習を行います.

□地域拠点校にとって：現職教員院生の研究テーマの追求を通して教職大学院教員が継続的に学校と関わり，大学における研究上の知と学校が蓄積している経験知の融合を図りながら学校現場が今，抱える課題の解決を進めていきます.

□地域にとって：地域の教育課題をふまえた地域拠点校の研究を現職教員院生や拠点校教員と教職大学院教員が協働しながら課題解決し，その成果を積極的に地域に還元します.また，地域拠点校を核としながら継続的に教職大学院が地域に関わり，教育課題の解決をサポートします.



島根大学 教育学部 教育研究科（教職大学院）

研究者教員		
大谷　みどり	教授	外国語教育
加藤　寿朗	教授	社会科教育,生活科教育,総合的な学習
久保　研二	准教授	教師教育学,保健体育教育学,リフレクション
熊丸　真太郎	准教授	教育経営学,教師教育学
原　広治	教授	特別支援教育,就学相談,地域療育活動,子育て・子育ち支援
肥後　功一	教授	教育臨床心理学,発達臨床心理学,教育相談,生徒指導,特別支援教育,地域の保育・教育支援（一貫教育,子育て支援）
松本　一郎	教授	理科教育,環境教育,地球・宇宙教育
丸橋　静香	教授	教育哲学,道徳教育
実務家教員		
池尻　和良	特任教授	特別支援教育,学校・学級経営
大島　悟	教授	学校・学級経営,教科教育
岡崎　茂	特任教授	生徒指導,教育相談,学校経営,特別支援教育
長　和博	特任教授	学校・学級経営,教科教育,へき地教育
千代西尾　祐司	教授	学校・学級経営,教科教育,ICT教育
中村　怜詞	准教授	地域教育,教育魅力化コーディネート
橋爪　一治	教授	ICT教育,技術科教育,子どもの発達
宮崎　紀雅	准教授	特別支援教育,学級経営,教科教育

山陰の地域ニーズや現代的教育課題に対応した授業内容と指導方法

■地域の学校が今，取り組まなければならない課題に対して，教育実践を多角的に分析し，具体的な方策を構築し，組織力開発の中核となるスクールリーダーを養成します.また，ICTを活用した遠隔研修や自己省察力を高めるための『教師力ナビゲーションシステム』を活用した新しい教育方法を取り入れます.

■**共通科目**：地域の実態や新しい教育課題を踏まえた科目「教科指導力向上のための授業研究と課題」「子ども理解・保護者支援のための学校教育相談」「特別支援教育の視点に立つ学級・学校経営」等を開講します.また，地域の実態や現代的な教育課題に対応した新しい教育理論や課題解決に向けての実践的アプローチの方法を学びます.（必修：20単位）

■**選択科目**：個々人の学修要求の応じて3つの科目群（学校創造，授業デザイン，子ども支援）から選択して学習します.

■**課題研究科目**：学校現場が今，抱える教育課題の解決を目指した研究テーマを設定し，講義で学んだ教育理論と実習による実践を関連付けながら研究を進め，その成果を報告書にまとめます.

■**実習科目**：学部新卒学生は公立学校において長期インターンシップによる課題発見とその追求を，現職教員は勤務校で地域・学校の教育課題の解決を目指した教育実習を2年間で行います.

教職大学院で学ぶ内容（学部での学びの深化）

■3つの領域ごとに共通・選択科目を設定し，現代的教育課題に対応できる教師の育成をめざしています.
たとえば，『カリキュラム改善の事例研究』の授業では，新学習指導要領で重要とされる「社会に開かれた教育課程」について，教師はもとより家庭や地域の人々が，児童生徒の「学習の在り方」を展望していく取組を考察しながら，学校と地域が相互に連携・協働していくための企画力を身につけていきます.

■また『学力向上を目指した教育方法の探究』の授業では，各教科等に応じた個別的指導のもと，教科教育に関する知識・技能を活用した効果的な指導の開発と実践を行っています.

多彩な授業のラインナップ

共通科目

- ●カリキュラム改善の事例研究
- ●カリキュラム開発の実践的研究
- ●教科指導力向上のための授業研究と課題

授業デザイン領域

- ●学力向上を目指した教育方法の探究
- ●教育素材の研究と新しい教材開発
- ●現代的課題に対応した授業デザイン論
- ●子どもに応じた教育内容の開発
- ●授業デザインのための学習観の探究

授業デザイン科目

学校創造領域

- ●学級・学校のマネジメントと課題
- ●社会変化と学校役割
- ●社会変化と教職倫理
- ●現代的・地域的課題に基づく生徒指導の実践的研究

- ●エビデンスに基づく授業改善
- ●へき地・複式教育の視点から見た学級・学校経営
- ●学校経営の国際比較
- ●多様化時代の学校リーダーシップ
- ●地域の教育拠点としての学校マネジメント
- ●学校の組織マネジメント発展演習エビデンスに基づく学校改善

学校創造科目

子ども支援領域

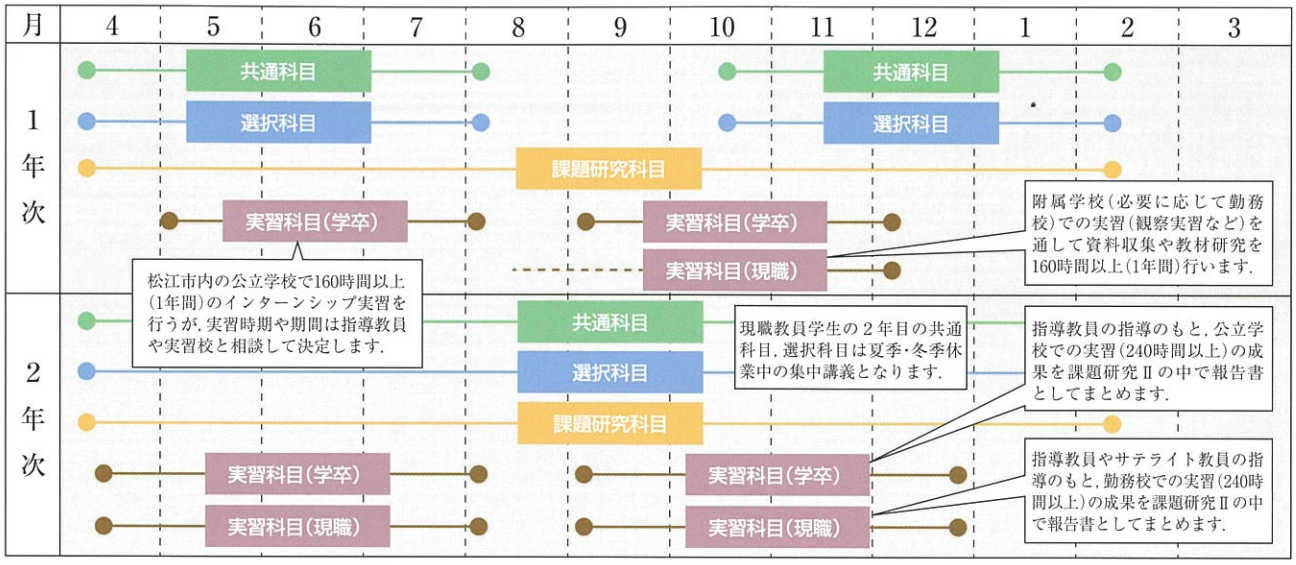
- ●子ども理解・保護者支援のための学校教育相談
- ●授業のユニバーサルデザイン実践演習
- ●特別支援教育の視点に立つ学級・学校経営

- ●インクルーシブ教育研究
- ●特別支援教育コーディネーター研究
- ●発達障害児診断・アセスメント研究
- ●特別な支援を要する子ども理解と教育支援A(知)，B(肢)，C（病）

子ども支援科目

課題研究科目：●課題研究Ⅰ・Ⅱ（学校創造・授業デザイン・子ども支援）（初等・中等）
実習科目：●学校教育実践研究Ⅰ・Ⅱ（学校創造・授業デザイン・子ども支援）（初等・中等）

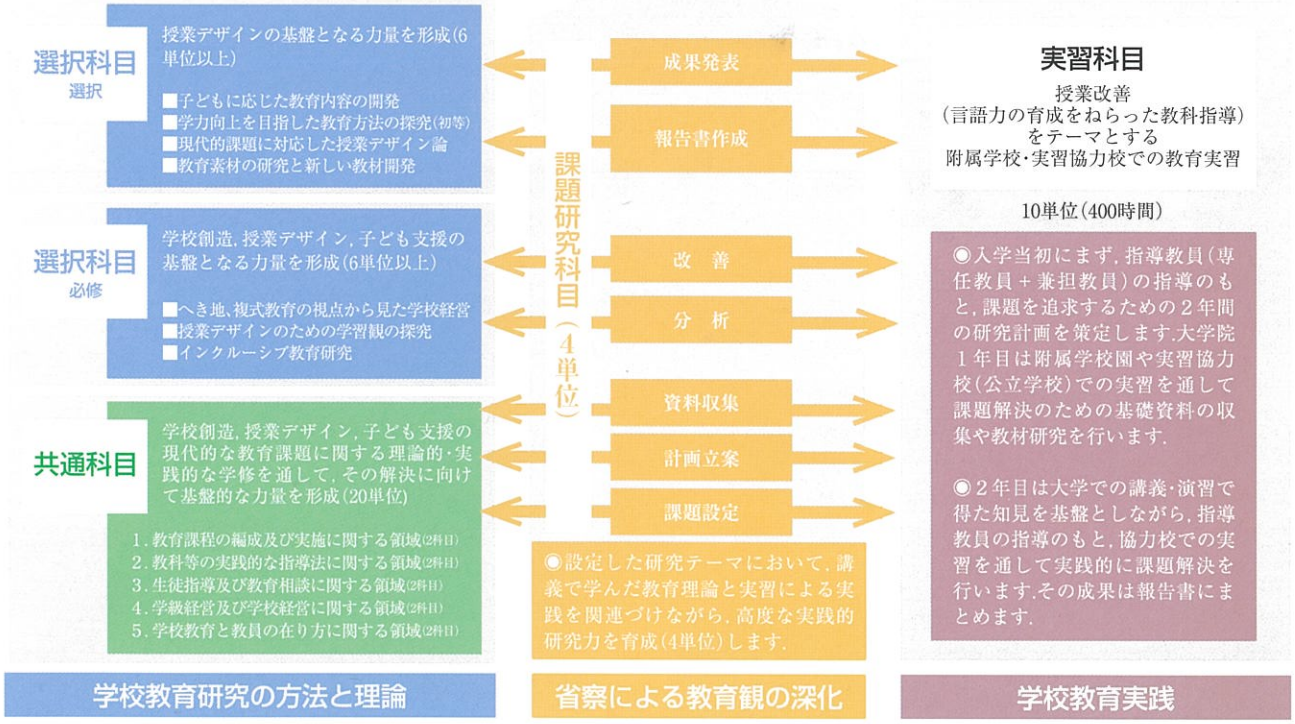
教育実践開発専攻（教職大学院）の２年間



「理論と実践の融合」を目指した学修イメージ

例）
学部新卒学生Bさんの研究テーマ
「協働的な学習による言語力の育成」

高度な専門的知識に基づく教育実践力の修得



島根大学教職大学院で，教育の「今」と「未来」を学び合う

教職大学院で学ぶ内容（学部での学びの深化）

■3つの領域ごとに共通・選択科目を設定し，現代的教育課題に対応した「社会に開かれた教育課程」について，教師はもとより学校と相互に連携・協働していくための企画力を身につけていきます．

■「これからの学校」や「これからの学び」を意識することで，従来のカリキュラムでは不足しがちだった内容に焦点をあて，多様な活動を通して学部教育（学部専攻）で身につけた教科専門の力を，さらに引き続き伸ばしていけるよう設計されています．

■従来とは異なる視点からの事例研究や模擬授業，ケースメソッドなどの手法をとおして，また在学する2年間貸与されるPCとタブレットや遠隔地をインターネットで繋ぐWeb会議システムなどのICT機器を活用して、山陰地域の教育課題に迫っていきます．

時間割からみる，大学院生の1年間

（前期）	月	火	水	木	金
1・2	実習日	授業デザイン科目	共通科目	←太枠は必修科目	
3・4			学校創造科目	共通科目	共通科目
5・6		学校創造科目		共通科目	学校創造科目
7・8		共通科目		子ども支援科目	授業デザイン科目
9・10		課題研究Ⅰ		子ども支援科目	
集中・不定期 1年→	学校創造	授業デザイン	子ども支援科目	実践研究Ⅰ	
集中・不定期 2年→	学校創造	授業デザイン	子ども支援科目	課題研究Ⅱ	実践研究Ⅱ

（後期）	月	火	水	木	金
1・2	実習日	実習予備日	共通科目	授業デザイン科目	
3・4			共通科目	共通科目	共通科目
5・6				共通科目	学校創造科目
7・8					学校創造科目
9・10		課題研究Ⅰ			
1年→	実践研究Ⅰ	子ども支援科目	子ども支援科目	学校創造	授業デザイン
2年→	課題研究Ⅱ	実践研究Ⅱ			

院生室での暮らしと現場感覚の醸成（現職教員院生と共に学ぶ効果）

学校をよく知る現職教員院生と，これから学校に出てゆく学部新卒院生が共に過ごすことで学びを深めあう，大きな効果が生まれています．

ほぼ「リアル」な職員室内風の議論ができ，学部も，教科も，経験も，地域も異なる多様な仲間達がそれぞれの専門性を持つ「チームとしての教職大学院」で暮らすことで養われる力量は計り知れません．

長期間の実習によって培われる実践力（学部での教育実習との違い）

院生の研究テーマにマッチする実習協力校（公立学校）を決定し，めまぐるしく変化する学校現場で，2年間の実践研究（実習）を経験します．

より「リアル」に，職員室の「お客様」でなく「一員」として，現実味のある学校を，実習協力校でインターンシップのように体験しつつ過ごします．

実践研究（実習）はアクション・リサーチであり，多様な課題解決や，現場がどのように解を導いているのかを体験したり，授業がとりあえず「できる」段階から，子ども達を動かす授業が「創れる」段階への成長をめざします．

学級経営，生徒指導の実際や，危機管理や保護者との連携，さらに教育相談など，短期間の教育実習では触れることが難しかった，学校の現実体験に迫り，自己を耕します．

島根・鳥取両県の教育センター等との協働で，「生」の教師と語り合う豊かな時間・空間や，実際に現場の教員たちが受講している研修等への聴講ができる制度などもあり，計画的に参加できます．

大学院生（修了生含む）の声

島根県教員採用試験で中学校に合格しました．学部4年次は高校を受験しましたが不合格となり，それを機に自らの学び足りなさを痛感して大学院への進学を決めました．学部4年間では教科の専門を学んできましたが，学校教育全般に関する学びを十分にできなかったという思いがありました．

講師として学校現場にでれば，日々子どもたちと共に貴重な経験を積めるであろうという思いもありましたが，大学院で島根県が抱える現代的な教育課題に対する授業内容や方法，学校経営，教育相談，生徒指導などについて様々な文献をもとに熟考し，教育を広い視野で捉える時間をつくりたいと考えました．

講義は現職教員の大学院生の方々と共に，基本的にディスカッション形式で行います．初めは話し合いに上手く参加できず，もどかしい思いをしました．しかし，学校教育に関わる様々なテーマについて自分なりに考えを語ることや，他の学生の多様な経験知に基づいた意見を聞くことは，教師を志す上で非常に貴重な経験であるし,同時に教員採用試験対策につながっていたように思います．

実習は，松江市内の高等学校で様々な教科の授業観察や授業実践，学級経営への関わり等の貴重な体験をさせていただいています．このように，教職大学院では理論と実践の往還を通して，充実した学びが保障されています．学校現場にでる前に、まだ学び足りていないという思いのある方は，ぜひ進学を検討してみて欲しいです．

現職教員の立場から入学した教職大学院での2年間を振り返ると，大きく2つの良さがありました．

1つ目は，今までの実践を俯瞰的に見つめ直すことができたことです．学校現場は多忙です．私自身，目の前の子どもたちのために常に走り続けていました．大学院では，一旦立ち止まって自分の今までの実践を振り返ることができます．落ち着いて振り返る中で，何が課題なのか，何が必要なのかといったことを，整理することができました．

2つ目は，自分が求める学びが得られることです．教職大学院には，様々な分野の専門の先生がおられ，ニーズに合った学びが得られます．つまり，オーダーメイド型の授業を受けることができるのです．自分が深めたいと思うことを，とことん突き詰めることができました．

教職大学院で学ぶにあたって，今，高度な知識や，高い授業力をもっていないといけないわけではありません．楽しく分かる授業がしたい，日々の授業の質を高めたい，そのために学びたいことがある，といった気持ちがあれば，十分に満足できる環境だと思います．2年間で多くの学びを得ることができたとともに，様々な先生方と繋がることができました．教職大学院で学んだことが，今の仕事の支えとなっています．

多忙な教員生活の中で，勉強しながら採用試験合格を目指すことに自信がなく不安を抱いていた私は，講師として働くか迷いながらも，現場よりも勉強時間が確保でき，なおかつ教職に対して学びを深めることのできる教職大学院へ進学することを選択しました．

大学院では，日々の授業が全て教員採用試験の対策に直結していると言っても過言ではありません．最新の教育現場の理論等を学びつつ，協力校で実践を行うことが出来ます．教職大学院の一番の強みは，現職教員院生の先生方と一緒に勉強できることだと思います．理論的な知識だけではなく，先生方から実際の現場の状況を聞き，イメージしながら学べることは，「活きる学び」に繋がっていると実感しています。

実際に，私が採用試験の面接で聞かれた内容は教職大学院の授業で学んだことや考えたことばかりでした．また，教員採用試験の対策に関しては，現職の先生方に模擬授業を手伝っていただいたり，教育委員会や管理職で働いておられた先生方に面接練習をしていただいたり，手厚くサポートしていただきました．そのおかげで，本年度，教員採用試験において合格することができました．

教職大学院には，学生を応援してくれる環境が整っていると思います．教職大学院に進学することは一見すると遠回りに思えるかもしれません．

しかし，大学院に進学して良かったと自信を持って言えます．それはこの半年間で得てきた学びが自分のものになり，早く現場で活用したいという思いが膨らんでいるからです．悩んだ末の大学院進学でしたが，勇気をもって進学を決めて良かったと思っています．

鳥取県から現職派遣院生として大学院にお世話になっています．教員生活も20年近くになりました．この20年で学校を取り巻く環境は大きく変わるとともに学校に求められるものも格段に増えてきました．そして授業も「主体的・対話的で深い学び」という視点のもと大きく変わろうとしています．しかし多忙な教員生活の中で，次々と学校に求められてくる内容に応じて勉強していくのは難しいことでした．そこで今後求められる授業とはどういうものか研究しようと思い，教職大学院へ進学しました．

大学院では授業改善に関することだけでなく、生徒指導，教育相談，特別支援教育，マネジメントに関することも学ぶことができ，幅広い視野で学校というものを考える機会を得ました．授業では理論を学ぶのはもちろんのこと，同じ院生と活発に討議することもあります．他校種，他教科の現職教員の方々とストレートマスターの院生と議論することは，中学校だけの世界で教員として働いてきた私にとって新鮮で刺激があり，勉強になります．今後はこの学びを実践へ活かしていきたいと考えています．

島根大学教職大学院は山陰両県の教師教育を担うための教職大学院として設置されています

島根大学教職大学院は,
島根・鳥取両県の教師のキャリア発達に貢献するための
大学院として文部科学省に設置認可されています。
山陰両県の教師の職能発達に資することが目的なため,
島根県・鳥取県から毎年数名ずつの現職の先生方が派遣されています.

Q&A

大学院生が
よく後輩に聞かれる
質問項目をまとめてみました

教職大学院は,これまでの大学院と何が違うのですか?

地域の学校教育を牽引する専門家(スクールリーダー)を養成する大学院で,授与される学位は「教職修士(専門職)」です.山陰地域の教育課題を深く追求し,広い視野から組織的に解決できる力を養成します.

就学途中で教員採用試験に合格した場合,採用はどうなりますか?

たとえば,入学前や1年生のときに合格した場合,島根県や鳥取県等では,大学院修了まで合格を維持したまま待って頂ける制度があります.

教員採用試験の勉強をする時間はありますか?

1年目の大学での講義は1日2 ～ 3コマです.それ以外の時間に教員採用試験の対策をして,1年目に合格する大学院生もいます.(平成29年度の1年生は83%が合格しました)2年目は,学校での実習以外は教員採用試験の対策に取り組んでいます.

学費はおおよそ年間いくら位必要になりますか?

入学料は282,000円,授業料は535,800円(年額)です(いずれも平成30年度).入学料・授業料の免除制度や奨学金制度もあります.詳しくは,島根大学教育・学生支援部学生支援課にお尋ねください.

アルバイトができる時間的な余裕はありますか?

大学での授業や実習以外に,アルバイトや自主的な活動に取り組んでいる大学院生も多くいます.大学院での学修と,そうした活動の両立は十分可能です.

実習は,どのような学校で実施するのでしょうか?

実習は,松江市内の公立小中学校で行います.希望する校種によっては,高校や特別支援学校等での活動も可能です.

実習校ではどんなことをするのですか?(授業や部活等)

研究テーマに関するデータ収集(観察や調査)と授業実践が中心です.その他,担当学級の学級経営の補助や,学校行事の運営補助,中学校では部活動指導の補助など,授業以外にも学校の様々な活動を経験します.

専門教科の授業がありますか?

教職大学院では,教科指導力の向上のため,教科の内容を深く学び,教材づくりや授業のデザインを考える授業があります.また,研究テーマによっては各教科の教科教育の大学教員が指導教員になりますので,ゼミ形式で教科の専門性を伸ばすことも可能です.

教育学部以外の出身なので、不安があるのですが?

大学での授業は少人数なので,大学院生のみなさんそれぞれに配慮した授業を行っています.その他,大学院生同士で,それぞれの専門性や得意分野を生かして学びあい,支えあっています.実際,教育学部以外から進学してきた院生も多く在籍しています.

島根大学大学院 教育学研究科 教育実践開発専攻(教職大学院)

入学定員	17名(学部新卒学生等:9名程度/現職教員8名程度)
修了要件	修業年限(2年間を標準とする※1),修了単位(46単位)
担当教員	専任教員16名及び兼担教員60名,兼任教員(嘱託講師)2名
学位	教職修士(専門職) 実習等を含めた2年間の本課程(専門職学位課程)の修了要件を満たすことによって取得できます. 従来の修士課程とは異なり修士論文は課しません.
免許	小学校教諭専修免許状,中学校教諭専修免許状,高等学校教諭専修免許状, 幼稚園教諭専修免許状,特別支援学校教諭専修免許状 小・中・高・幼の専修免許は「教職に関する科目」を24単位,特支の免許は「特別支援教育に関する科目」を24単位取得することによって取得できます. ただし,当該免許状の一種免許状を有している必要があります.

※1 幼稚園教諭免許状または中学校教諭免許状(いずれも一種であること)を有する者が小学校教諭一種免許状を取得できる「長期在学(3年)プログラム」を開設しています.

お問い合わせ
人とともに 地域とともに
国立大学法人
島根大学
SHIMANE University

島根大学教育学部事務グループ Tel 0852-32-6251
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 E-mail edu-jimu@office.shimane-u.ac.jp
参考URL:http://www.edu.shimane-u.ac.jp/daigakuin/edu/